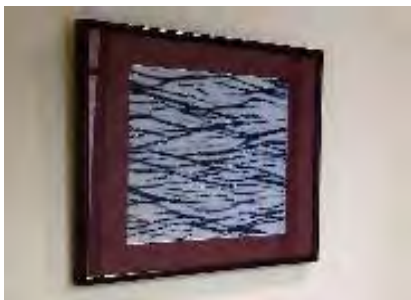


## ■ 502号室 矢野藍秀 プロデュース テーマ 鳴門の渦潮・波・青海波

### プロフィール

1963年 徳島県板野郡藍住町出身、1984年、阿波藍を守りつづけてきた徳島の佐藤家19代目の藍師である佐藤昭人氏に師事、阿波藍造りを学び、天然灰汁醗酵建てによる本藍染を開始。1987年、日本藍染文化協会より「天然灰汁醗酵建技術保持者」の認定を受ける。1989年、有限会社 本藍染矢野工場を設立。2004年、インドネシア、ジョグジャカルタ王室より依頼を受け、バティックを制作、翌2005年には曹洞宗大本山総持寺、大法被修復藍染を担当。2012年NHK大河ドラマ「八重の桜」でオープニングのタイトルバックを制作。2015年徳島県地域文化振興表彰ならびに、観光ユニバーサル大賞受賞。2018年フランスジャポニズム2018「地方の力～祭りと文化」へ参加。

502号室では、青海波や渦潮をモチーフに阿波藍ルーム新設のために染め上げられた藍染作品の数々がお部屋を彩ります。本物の阿波藍が持つ魅力、藍染の匠 矢野藍秀ならではの世界観をお楽しみください。



### 阿波藍染作品

玄関ドア前壁面/本藍染「青海波」文様（額入り）

廊下の藍染作品（1点/額入り）「波」本藍染ムラ雲絞り

床の間の藍染作品（1点/額入り）「鳴門渦潮」本藍染ししげ絞り 藍返し

テーブルセンター（1点）「波」

座布団カバー（4点）\*段染め

卓上ミニランプ（1点）\*メイプル藍染（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

本藍染建具：本間ふすま2枚 開き戸 / 次の間ふすま3枚 \*段染め

本藍染建材：床の間（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

矢野藍秀 1963年5月12日生 徳島県板野郡藍住町矢上字江の口25番地1

## 染色歴

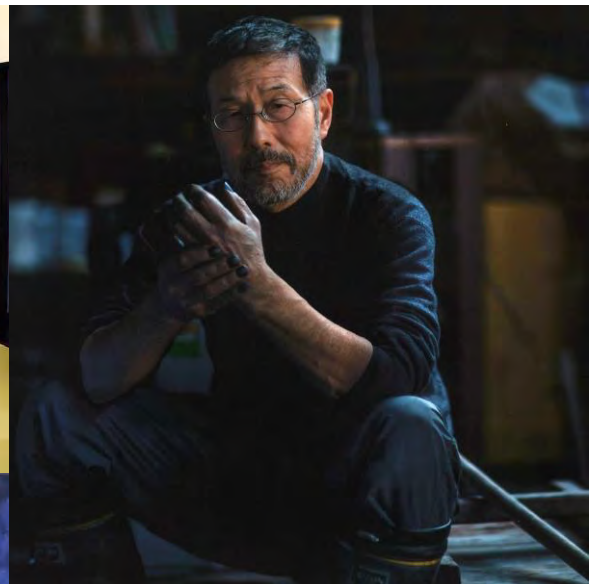
- 1984年 佐藤昭人氏に師事、阿波藍造りを学び、天然灰汁醗酵建による本藍染を開始
- 1986年 藍住町に工房開設
- 1987年 日本藍染文化協会より「天然灰汁醗酵建技術保持者」の認定  
日本藍染文化協会正会員  
日本藍染文化協会主催 藍の祭典「藍染文化展」に出展、  
以後、全国各地で開催され現在も継続出展中
- 1988年 徳川美術館より依頼を受け、徳川家康小袖再現、藍染を担当
- 1989年 有限会社 本藍染矢野工場を設立
- 2001年 日本藍染文化協会会員天然灰汁醗酵建勉強会を開講、天然灰汁醗酵建技術指導を開始、  
現在も育成中
- 2004年 インドネシア、ジョグジャカルタ王室より依頼を受け、バティック製作、藍染を担当
- 2005年 曹洞宗大本山総持寺、大法被修復藍染を担当
- 2006年 第22回国民文化祭、徳島2007にて、藍染セミナー講師を務める
- 2009年 徳島県より「徳島県伝統的特産品製造事業者」に認定  
矢野本藍染教室を開講
- 2010年 東京国際キルトフェスティバルにて、染色工程の実演講師を務める  
徳島県主催「阿波藍×未来型プロジェクト」に参加  
装道礼法きもの学院、梅田校特別講師、年一回の講義を行い現在も継続中  
文化庁委託、地域伝統文化統合活性化事業「一日阿波藍体験塾」に協力、藍談義を開講
- 2011年 財団法人民族衣装文化普及協会より、民族衣装文化功労者として「きもの文化賞」を受賞  
徳島新聞カルチャーセンター講師に着任、現在も継続中
- 2012年 NHK大河ドラマ「八重の桜」平成25年4月放送のオープニングタイトルバックを製作
- 2015年 徳島県地域文化振興表彰  
徳島県26年度観光ユニバーサル大賞受賞
- 2018年 徳島県文化事業、フランスジャポニズム2018「地方の魅力ー祭りと文化」へ協賛参加  
「パリ日本文化会館」にて藍建て、藍染実演講師を務める

## ■ 509号室 古庄紀治 プロデュース テーマ 無

### プロフィール

1947年生まれ徳島県出身 紺屋 古庄藍染處（有限会社 古庄染工場）六代目。  
五代目 故 古庄理一郎翁は、日本の伝統の復興に生涯をささげた人で、昭和47年天然藍染による注染法完成、また1977年には天然藍染（灰汁醗酵建て）による小紋を完成。  
息子の紀治氏は、大学卒業後、先代の古庄理一郎氏の見習いとして紺屋職人としての道を歩み始める。父、理一郎氏の化学染料を一切使わない昔ながらの天然藍染めにこだわり続けた背中をみて育った紀治氏は、化学染料を一切使わないのが当たり前だという環境で、藍に接してきました。1998年には、厚生労働省より国選定卓越技能章「現代の名工」として表彰され、2018年4月徳島県無形文化財の指定を受けるなど名実ともに、藍染めの第一人者として地位を確立しています。

阿波藍ルーム（509号室）では「現代の名工」古庄紀治氏の伝統美あふれる秀悦した藍染作品に囲まれ、上質な滞在をお楽しみいただけます。



### 阿波藍染作品

玄関ドア前壁面/本藍染 ぼかし（額入り）

廊下の藍染作品（1点/額入り）「鳴門の渦潮」 ※写真1

床の間の藍染作品（1点/額入り）\*幾何学文様

テーブルセンター（1点）

座布団カバー（4点）\*幾何学文様

卓上ミニランプ（1点）\*メイプル藍染（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

本藍染建具：次の間ふすま8枚連作 ※写真2

網代編み本藍染建材：床の間（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

古庄紀治 1947年 徳島市生まれ

1998年 国選定卓越技能章「現在の名工」表彰

2018年 徳島県無形文化財に指定

下記にアクセスして古庄紀治（古庄染工場）の藍染作業工程を動画でご覧ください。（You Tube）



タイトル：阿波藍（徳島県）～4K画像でめぐる日本のふるさと「徳島」

【徳島新聞動画 TPV(Tokushima Press Video) 2014年撮影 2分40秒】



タイトル：空気に触れ変化 徳島の職人「藍は生きている」

【朝日新聞デジタル 2018年10月公開 30秒】



## ■ 602号室 近藤美佐子 藤森美恵子プロデュース テーマ 阿波踊り 波

### 近藤美佐子 プロフィール

徳島県東みよし市出身、2011年、藍工房「たった一本の幸せ」を設立。  
自身の工房で葉藍からすくもを作った経験もあり、現在も灰汁発酵建ての染色方法に  
こだわり作品を作り続けている。（\*別途 経歴詳細をご覧ください。）

### 藤森美恵子 プロフィール

阿波和紙製造業（アワガミファクトリー）を営む藤森家に嫁いできて、紙づくりの現場を緑の  
下で支えてきました。子育てがひと段落してから、本格的に藍染和紙に取り組むようになり、  
義母のツネの手伝いをしながら、藍で和紙を染めるさまざまな技術を学んできました。今では、  
伝統工芸士（国家資格）の称号も取得し、藍染和紙作りの中心を担う染師となりました。

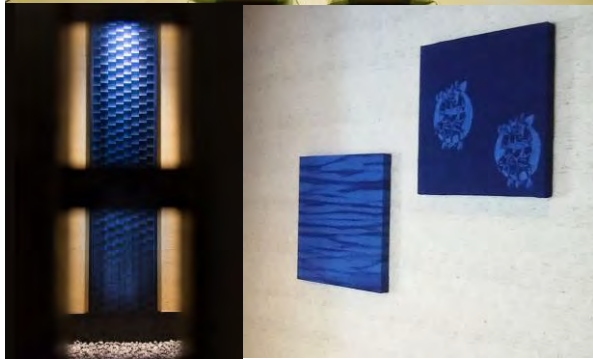
床の間の装飾や備品を近藤美佐子さんが、ふすまなどの建具を藤森さんが手がけました。  
二人の「阿波女」が女性ならではの繊細な感性で生み出したお部屋で、安らぎのご滞在を  
お愉しみください。



藍工房 たった一本の幸せ  
近藤美佐子



アワガミファクトリー  
染師 藤森美恵子



### 阿波藍染作品 近藤美佐子

廊下の藍染作品（ファブリックボード4点） 女踊り・波文様 ※写真1

床の間の藍染作品（1点/額入り）「水辺の舞台」

テーブルセンター（1点）「女踊り」

座布団カバー（4点）「阿波踊り」

卓上ランプ（1点）（藍塗 大利木材）

### 藍染建具 藤森美恵子

次の間の襖 阿波和紙に藍染 ※写真2 \*本間の障子は、阿波和紙に藍色のスレン染め

藍塗建具 玄関外、床の間 大利木材

## 近藤美佐子

- 1997年 旧三好町役場在職中に阿波藍染の研究を開始
- 1999年～2003年迄  
藍染、ろうけつ染め作家 故 竹内晃子氏（阿波藍灰汁醗酵建て保持者 県無形文化財）から、灰汁醗酵建て・折りたたみ絞り・ろうけつ染めの指導を受ける。
- 2011年7月 東みよし町役場退職後、空き家を利用し、藍染め工房「たった一本の幸せ」開設  
開設と同時に工房で第一回藍染め展（個展）開催
- 2012年10月 第67回徳島県美術展、第27回国民文化祭徳島県実行委員会会長賞 受賞作品「阿波の踊り子」  
11月 第40回手工芸展奨励賞 受賞作品「秋の阿波踊り」
- 2013年12月 第2回コレゾ財団 伝統の灰汁醗酵建てで染色する藍染作家賞
- 2014年3月 工房を徳島市丈六町に移転  
5月～6月 第2回藍染個展開催（木工会館） テーマ「古い着物を藍でリメイク」  
10月 第69回徳島県美術展美術工芸部門純特選 入選作品「しなやかに（女踊り）」
- 2015年2月 第3回個展開催（四国酒祭り） テーマ「藍が躍る」  
10月 第70回徳島県美術展美術工芸部門奨励賞 受賞作品「木漏れ日に揺れる藍」
- 2016年4月 現在工芸美術家協会四国会会員 / 徳島県美術家協会（美術工芸部）会員  
第55回日本現代工芸美術展入選 入選作品「流木物語」  
7月16日～9月2日まで  
第4回個展開催 香川県直島ギャラリー「Na PAM」（夏の瀬戸内国際芸術祭）にて  
テーマ「瀬戸の海に躍り出たジャパンプルー」  
10月 第71回徳島県美術展美術工芸部門入選 入選作品「かずら橋の出口」
- 2017年2月 阿波藍染めショール（三重織りシルク）徳島特選ブランドに認定  
4月 第5回個展開催 徳島市地場産業振興協会主催・徳島県手芸家協会後援  
テーマ「樹のシート&阿波和紙を藍で彩る」  
第56回日本現在工芸美術展入選 入選作品「朝霧の中で（かずら橋）」  
徳島県藍染め研究会会員  
10月 第71回徳島県美術展美術工芸部門入選 入選作品「水の音に癒されて」
- 2018年3月 第57回日本現代工芸美術展入選「水辺の春」

◎七色の藍の濃淡で絵画風の藍染めの技法を考案。阿波踊りや祖谷のかずら橋、野の花などの作品がある

## 藤森美恵子

アワガミファクトリー（吉野川市山川町）で染師として活躍

◎アワガミファクトリー公式HPの「藍染和紙」のページにて「アワガミと藍染」  
「染師 藤森美恵子」のページをご覧ください。

<http://www.awagami.or.jp/indigo/>



## ■ 609号室 ふたあい政則はらだプロデュース テーマ 月（球体）

### プロフィール

1952年生まれ徳島県鳴門市に生まれる。写真家のかたわら1976年から藍染の研究をはじめ、1988年鳴門市池谷に藍染工房「ふたあい」を設立、大阪 神戸 高松 高知など各地で個展を展開、1991年朝日現代クラフト展入選、以降、皇太子や天皇陛下が来徳の折のご休憩所の装飾などに携わる他、徳島県が天皇陛下（宮内庁）に県の工芸品を献上する折の作品を手掛けるなど、阿波藍の魅力発信に貢献し続けている。

伝統とモダンを調和させる現代の藍染職人で、工房名の「ふたあい」には伝統色である「二藍」とクロスオーバーする従来の藍染めと現在の藍染め「ふたつの藍」という思いが込められているという。藍染めの中でも珍しい型染め技法から生まれる作品は、写真家のかたわら藍染の研究をはじめた異色のキャリアのもつ感性と、試行錯誤を重ねて生み出した繊細な職人技が光る逸品。

阿波藍ルーム（609号室）では、阿波藍600年の伝統美と緻密で繊細な型染めの技法で染められたモダンでシャープな藍染めを融合させた、ふたあい政則はらだ氏の作品に囲まれてお過ごしいただけます



### 阿波藍染作品

玄関ドア前壁面/本藍染 型染め「荒波に浮かぶ月」

廊下の藍染作品（1点/額入り）「波間の月に遊ぶうさぎ」

床の間の藍染作品（1点/額入り）「月に飛鶴文」

テーブルセンター（1点）「椿」

座布団カバー（4点）\*球体幾何学模様

卓上ミニランプ（1点）\*メイプル藍染（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

本藍染建具：本間ふすま2枚 次の間ふすま3枚 「月の満ち欠け 上弦の月～半月～満月」

本藍染建材：床の間（矢野工場・オザキ工芸・河野真空プレス）

ふたあい政則はらだ プロフィール

- 1952年 鳴門市に生まれる
- 1970年 写真家のかたわら、藍染の研究を始める
- 1988年 鳴門市池谷に藍工房「ふたあい」設立  
キャラリー（高松・岡山・神戸・大阪・高知・徳島）にて個展開催
- 1991年 朝日現代クラフト展入選  
皇太子殿下徳島県行幸時御休息所装飾  
読売テレビ「遠くへ行きたい」放送
- 1993年 天皇陛下徳島県行幸時御休憩所装飾  
ふるさと文化人6人展  
（賀川豊彦・瀬戸内寂聴・新井天鶴・パロン薩摩・立木利治・ふたあい政則はらだ）
- 1994年 読売テレビ「遠くへ行きたい」放送
- 1995年 徳島そごう美術画廊にて個展  
四国放送テレビ「ふるさとトークみらい21」放送
- 1996年 倉敷三越美術画廊にて個展
- 1997年 四国放送ラジオ「あわ紳士録」放送  
徳島そごう美術画廊（吉野川）にて個展  
徳島県日仏協会パリ祭出品  
アメリカ・サギノー市庁舎とサギノー庵に作品寄贈  
アメリカ・ミシガン州のハイスクールで作品展示
- 1998年 香川県日仏協会パリ祭協賛  
高知大丸美術画廊にて個展  
天皇陛下徳島県行幸時（藍・木工・デザインによる作品）御買上賜る
- 1999年 徳島県より天皇陛下（宮内庁）に（藍・木工・デザインによる作品）献上
- 2001年 徳島県全国農業青年交換大会ファッションショー出品
- 2003年 徳島阿波銀プラザ「藍と花」協同展
- 2005年 徳島阿波銀プラザ「藍と墨」二人展
- 2007年 徳島そごう美術画廊（空間に藍を染め）にて個展  
徳島県台22回国民文化祭開会式・閉会式舞台装飾
- 2010年 徳島県阿波藍×未来形プロジェクト（吉田邸）展示
- 2011年 徳島県文化の森「藍色のある暮らし展」展示
- 2014年 徳島県より皇太子殿下（宮内庁）に献上